

軽井沢は霧が多い土地です。標高が約 900m の高原に位置すること、北側（群馬県側）により標高の高い「浅間高原」があり、気流が流れ込みやすこと、更に盆地状の地形のため、霧が滞留しやすいという特徴もあります。特に初夏から秋にかけては、霧の出ない日のほうが少ないぐらいです。

先日も軽井沢駅に降り立つと、濃霧に囲まれていました。この日、一つ手前（高崎寄り）の「安中榛名駅（あんなかはるなえき）」ではまったく霧は出ていませんでした。安中榛名駅と軽井沢駅の間は、ほぼ 100% トンネルです。「トンネルを抜けると、そこは濃霧の高原だった」という感じでした。

ある地点（観測点）から、どの程度先まではっきり見えるか、という指標を「視程」といいます。気象庁の「霧」の基準は「視程 1km 未満」となっていますが、この霧は 1km どころか 0.1km もありませんでした。写真には新幹線の架線柱が写っています。通常、新幹線の架線柱は 60m 間隔程度ですが、軽井沢駅のホームは曲線なので、30m 間隔程度です。2 本先の架線柱はかすかに見えますが、3 本目は見えません。視程は 80m 程度で「濃霧」と呼ぶにふさわしい霧でした。この日は気温も 10℃ ちょっとなかなか、半そでで降りた旅行客は、「寒っ！！」と震えていました。こんな濃霧の中でも安全に定時運行できる新幹線は、本当にすばらしいと思いました。

（2025 年 5 月中旬／北陸新幹線軽井沢駅）

